春日に神を祭る日に、藤原太后の作らす歌一首　即ち入唐大使藤原朝臣清河に賜ふ。

四二四〇番

大舟に　ま梶しじ貫き　この我子を　唐国へ遣る
斎へ神たち

大使藤原朝臣清河の歌一首

四二四一番

春日野に　斎く三諸の　梅の花　栄えてあり待て
帰り来るまで

大納言藤原家の入唐使等に餞する宴の日の歌一首

四二四二番

天雲の　行き帰りなむ　ものゆゑに　思ひそ我が
する　別れ悲しみ

民部少輔多治比真人土作の歌一首

四二四三番

住吉に　斎く祝が　神言と　行くとも来とも　舟
は早けむ

大使藤原朝臣清河の歌一首

四二四四番

あらたまの　年の緒長く　我が思へる　児らに恋
ふべき　月近付きぬ